

1：今年度の iPad の活用目標と活用状況

iPad の活用目標は「自立活動を主とする教育課程に在籍する障害の重い子どもについて、コミュニケーションを支援する機器として活用する」である。

進捗状況としては、現状では iPad を学習の中に入れていくことで、子どもが学習についてモチベーションをあげることができている。しかし、そこから具体的にコミュニケーションを支援する機器としては活用できていない。

また、中軽度の障害のある子どもの使用については、即効性があり、筋ジストロフィーの子どもは、動作圧が低いことでパソコンに比べて操作しやすいことや、不随運動のある子どもは、マウスや紙を持たずに大きな動きでもページがめくれることで、生徒会や体育祭等の行事で、使用している。今までは教員がページめくり等補助していたものが、一人でできるようになり、自己有用感につながっている。

2：現在活用しているアプリケーション

- ①「i love firework」タッチすると花火があがり、障害の重く手の操作性が低い生徒でも簡単に扱えるアプリのひとつ。視覚的に優れている。
- ②「pocket pond」上記と同じようにタッチするだけで簡単にフィードバックできるアプリで因果関係の理解が課題の子どもにもあっている。聴覚的に優れている。
- ③「モジュール ナゾルート」中軽度の障害のある子どもの書字学習に使用している。
- ④「CloudReaders」PDF化したファイルを表示させるアプリ。子どもの原稿読みに適している。
- ⑤「YouTube、Safari等」調べ学習で活用できる。パソコンを持ち運ぶこと、設置して設定すること、起動することに時間がかかっていたが、iPadを用いることで、大幅に時間が削減されている。
- ⑥「ビデオ」背景が黒くなっているので、選択しやすい。パソコンではなくiPadを使っている気持ちになれる。

これらの使用の中で、新鮮さ、その場でフィードバックできる、自発的な使用から自己有用感につながるという良さがある。

これらの用途でiPadを使用しているが、以下の難点・課題がある。

- ①東京都の教職員用のパソコンで作成したファイル（PDF）をiPadに転送するには、秘文化をする等数々の操作が必要であり、時間がかかってしまう。
- ②スイッチ操作に慣れている生徒は、ホームボタンに目が行ってしまいすぐ押してしまうのでやっていることが途中で終了してしまう。広告も目立つのですぐ押してしまう。
- ③貸与されたiPadにはミラリングができない。
- ④これまで獲得した入力手段を使えるようにする（ビックスイッチなど）
- ⑤スイッチ操作が可能でも指元でタッチする動きが苦手な生徒にはiPadが操作しにくいので、スイッチインターフェイスを使用し、スイッチ操作で動かせるようにしたい。